

## 著者紹介

Asaad Abdul-Ameer Khalaf  
Consultant in clinical hematology at  
Basrah Teaching Hospital, Oncology  
Center  
Doctor of Medicine

(Fellowship of the Iraqi Commission for Medical Specializations in Medicine)  
M.B.Ch.B./College of Medicine, University of Basrah, July 1994. Rotator resident, house officer in Basrah hospitals (Tahrir H., Teaching H., and General H.) from 1994 to 1996. Thereafter, worked as a doctor of primary health care in Nashwa Health Center until 1997. Permanent resident, senior house officer, in medical wards both in Basrah and Baghdad centers from 1997 to 2001. Internist/Clinical Hematologist since 2001 up to now.  
研究歴・専門分野：In 2004, being invited by SIC-N, I had spent one year training and studying at Nagoya University Hospital, Japan. I learned bone marrow transplantation as well as treating hematological cancers, and had done some lab work in relation to them. Being in final year of fellowship in medical sub-specialization of Iraqi Board for clinical hematology now, I am trying to cover the field of clinical hematology with special concern for BMT, and am preparing a modest study on BMT to present to the Committee of Hematology in Iraq.

\*SIC-N = セイブ・イラクテルドレン・名古屋  
所属学会：Iraqi Society of Hematology  
E-mail : asaadameer@yahoo.com

小島 勢二 Kojima Seiji  
名古屋大学大学院医学系研究科小児科学教授、医学博士。  
昭和51年3月名古屋大学医学部卒業、昭和51年4月愛知県厚生連加茂病院研修医、昭和52年4月名古屋大学医学部小児科学教室入局、昭和53年4月愛知県厚生連加茂病院小児科、昭和56年4月静岡県立こども病院血液腫瘍科、昭和59年6月名古屋第一赤十字小児医療センター血液腫瘍科、平成10年12月名古屋大学大学院医学系研究科成長発達医学教授、平成14年11月名古屋大学大学院医学系研究科小児科学教授。  
研究歴・専門分野：小児科学、血液腫瘍科。  
所属学会：日本小児科学会、日本血液学会、日本小児血液学会。  
E-mail : kojimas@med.nagoya-u.ac.jp

遠藤登喜子 Endo Tokiko

国立病院機構名古屋医療センター放射線科部長、医学博士。

昭和48年3月名古屋大学医学部卒業、4月名古屋掖済会病院研修医、昭和49年4月同内科、昭和52年4月愛知県がんセンター病院放射線診断部、平成2年10月名古屋大学放射線医学講座、平成3年4月同講師、平成5年7月同助教授、平成7年4月国立名古屋病院放射線科第一医長、平成16年4月国立病院機構名古屋医療センター放射線科部長。

研究歴：マンモグラフィ読影診断および教育に関する研究、マンモグラフィのCADシステムの開発、乳がん検診のあり方に関する研究など。

専門分野：画像診断 特に、乳房画像診断。

所属学会：日本医学放射線学会、日本超音波医学会、日本乳癌検診学会。

E-mail : endot@nnh.hosp.go.jp

後藤 節子 Goto Setsuko

名古屋大学医学部保健学科教授、医学博士。

昭和44年3月名古屋大学医学部医学科卒業後研修医、昭和45年4月名古屋大学医学部産婦人科教室助手、講師を経て平成5年4月名古屋大学医療技術短期大学部教授、平成9年9月名古屋大学医学部保健学科教授。

研究歴：産婦人科腫瘍、①絨毛性疾患の診断・治療、②腫瘍マーカーとしてのBCG微量測定。周産期女性の精神的支援。

専門分野：産婦人科学、母性看護学。

所属学会：日本産婦人科学会、日本母性衛生学会、日本絨毛性疾患研究会。

大西 一功 Ohnishi Kazunori

浜松医科大学内科第三講座助教授、医学博士。

昭和50年3月名古屋大学医学部医学科卒業、昭和50年5月社会保険中京病院嘱託臨床研修医、昭和52年4月社会保険中京病院内科、昭和54年8月名古屋大学医学部付属病院第一内科、昭和59年5月アメリカ合衆国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 微生物・免疫学教室研究員、昭和62年4月名古屋大学医学部付属病院第一内科、平成2年4月国立名古屋病院内科、平成5年7月浜松医科大学医学部附属病院第三内科講師、平成13年4月同大学医学部内科学第三講座助教授、平成17年4月同大学附属病院化学療法部部長、平成17年4月Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) 副代表、平成17年4月厚生労働省補助金・がん臨床研究・白血病研究班班長

専門分野：血液学、内科学 研究歴：悪性リンパ腫マウスモデルによるリンパ腫の増殖機構の解析、ヒト悪性リンパ腫の病理組織形成にかかわるサイトカインの解析、新規抗がん治療薬(亜硫酸、IL-12等)の作用機序の解析、血液腫瘍における分子標的療法の開発、慢性骨髄性白血病の病態および臨床研究、悪性リンパ腫の病態および臨床研究。

所属学会：日本内科学会、日本血液学会、日本臨床血液学会。

E-mail: kohnishi@hama-med.ac.jp

### 奥山 治美 Okuyama Harumi

金城学院大学薬学部教授(予防薬食学)、薬学博士。

1963年東京大学薬学部卒、1968年東京大学大学院薬学系研究科修了、1968年東京大学薬学部助手、1972年名古屋市立大学薬学部助教授、1979年同教授、2005年名古屋市立大学定年退職、同年同名誉教授、金城学院薬学部教授、現在に至る。この間、ペイラー医科大学、イリノイ大学、大連医科大学、大連大学で客員教授。研究歴・専門分野：リン脂質の生合成経路、膜流動性を制御する温度レセプター、 $\alpha$ -リノレン酸は脳・網膜機能維持に必須、リノール酸系/ $\alpha$ -リノレン酸系のバランスによる癌、アレルギー過敏症の予防、植物油の有害因子に関する研究、コレステロール仮説の崩壊など。現在は後の二つについて研究中。所属学会：日本脂質栄養学会、日本薬学会、日本脂質生化学会。

E-mail: okuyamah@kinjo-u.ac.jp

### 原 春久 Hara Haruhisa

協立総合病院副院長。

1971年3月名古屋大学医学部卒業、1971年4月安城更生病院研修医及び外科、1975年7月名大第2外科、1976年愛知県がんセンター病院外科研修、1978年4月協立病院外科、外科医長・部長を経て現在に至る。

研究歴：大腸癌に関する臨床研究、カルテ開示に関する研究。

専門分野：腹部一般外科、大腸癌早期発見から手術治療、緩和医療。

所属学会：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本大腸肛門病学会。

### 小林 一弘 Kobayashi Kazuhiro

岩屋病院精神科。

昭和62年5月浜松医科大学卒、昭和63

年7月静岡東病院・てんかんセンター、

平成元年10月浜松医科大学精神科助

手、平成4年9月榛原総合病院、平成7年9月浜松

医科大学精神科助手、平成9年4月岩屋病院。

研究歴・専門分野：犯罪精神医学

所属学会：日本精神医学会、日本犯罪学会。

前号に掲載いたしました渡辺正氏の論文について下記のとおり【文献】を追加いたします。(編集委員会)

### 「緩和医療の新しい展開」 渡辺 正

#### 【文献】

- 1) 古元重和：緩和ケア診療加算の新設。ターミナルケア 12：333-337, 2002
- 2) Doyle D, et al: Introduction. In; Doyle D et al, eds. Oxford Textbook of Palliative Medicine 2nd edition, Oxford Medical Publications, 3, 1998
- 3) 世界保健機関編、武田文和訳：がんの痛みからの解放、金原出版、1988
- 4) Stein C. et al: Attacking pain at its source: new perspective on opioids. Nature Medicine 9(8), 1003-1008, 2003
- 5) 服部政治：オピオイドローテーション。ペインクリニックのためのオピオイドの基礎と臨床、小川節郎編、真興交易(株)医書出版部、194-208, 2004
- 6) Wessely S.C.: Studying nonpharmacological intervention for fatigue. In; Portenoy R.K, Bruera E eds, Issues in palliative care research, Oxford University Press, 111-125, 2003
- 7) 志真泰夫：わが国におけるホスピス・緩和ケアの歩み、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、ホスピス・緩和ケア白書、1-10, 2004
- 8) エンゲルス「イギリス労働者階級の状態」、浜林正夫訳、新日本出版社、p56, 2000